

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



日本武道学会第49回大会開催

日本武道学会第49回大会



本部企画シンポジウム

武道とメディアのあり方を問う

日本武道学会第49回大会が9月7日・8日の2日間、三重・皇學館大学にて開催された。

初日の午後は、武道学会総会、清水潔皇學館大学学長による特別講演「日本精神と武道」が行われ、アレキサンダー・ベネット氏（関西大学教授）をコーディネーターとする本部企画シンポジウム「メディアと武道…伝統文化としての武道との関連から」が実施された。

また、2日間を通して午前中は、人文・社会科学系、自然科学系、武道指導法系、ポスター発表に分かれて、計112の一般研究が発表された。

2日目の午後は、柔道、剣道、弓道、空手道、なぎなた、障害者武道の各専門分科会が行われた。

総会

7日午後1時より、平成28年度総会が佐藤武尊大会事務局長（皇學館大学助教）の司会で始まった。

総会に先立ち、鷲見勝博大会委員長（中京大学教授）より、「本大会の一般発表演題数は、昨年に比べまして、およそ20%増となっており

ます。研究の創意工夫、活性化が窺われます。今後も、益々の武道研究の発展に期待いたします」と挨拶があった。

続いて、優秀論文賞の授与がなされた。優秀論文賞には、自然科学系から前川直也氏（国際武道大学准教授）他6名による「AHPを用いた柔道競技力の評価尺度の妥当性」が選ばれ、百鬼史訓日本武道学会会長から表彰を受けた。

総会冒頭、7月6日に急逝した副会長の杉江正敏先生に黙祷が捧げられた。続いて百鬼会長より、開会の辞が述べられた。

「いま中学校武道必修化が行われる中、社会的に武道に対する期待が大変大きいです。先生方への期待も大きいかと思われまます。来年度は第50回大会で世紀の節目です。新たな半世紀に向け、今後とも学会運営にご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます」

続いて、竹内外夫氏（中京大学競技スポーツ科学科長）と射手矢岬氏（早稲田大学教授）が議長に選出され、議事が進められた。初めに会長選挙に基づく次期会長の推挙があ

り、百鬼現会長を次期会長とすること
が承認された。続いて、副会長の
選出が行われ、現副会長の三藤芳生
氏（日本武道館理事・事務局長）の

ほか、新しく村田直樹氏、大保木輝
雄氏が承認された。また、顧問の推
挙があり、任期満了となる現副会長
の本村清人氏を顧問とすることが承
認された。また、林邦夫氏（中京大
学名誉教授）を名誉会員とすること
が承認された。

その後、平成27年度事業報告書
案・決算書案、特別会計（50周年記
念事業基金）決算書案、平成28年度
事業計画書案・予算書案、特別会計
予算書案が審議・承認された。最後
に、創立50周年記念事業として、来
年の第50回大会を、平成29年9月6
日～8日、関西大学千里山キャンパ



特別講演を行う清水潔氏

ス（大阪府吹田市）において開催す
ることや、記念誌の発刊、記念式典
の挙行が承認された。

特別講演

午後2時より、皇學館大学学長の
清水潔氏の特別講演「日本精神と武
道」が行われた。

日本精神——その内容は多岐にわ
たり、多端に分かれ、あらゆる方面
に及ぶ。外国文明のいわれなき模
倣、追従、感染を洗い去り、日本人
が古来長養し来たった精神を掘り所
とする。武士道、武道精神が直ちに
日本精神全体を覆うというのではな
く、日本精神の長所が最もよく発揮



講演を聴き入る学会会員たち

せられたものとして武士道を捉え、
武士道を日本精神の中核として理解
することができる。武士道は、日本
の道義を命をかけて実践躬行してき
た、日本人の生き方を支えた精神で
ある。

武士道は武家時代の特異の風習で
はない。太古より伝わって今日に及
んでいるものであり、日本の精神文
化の特質を発揮している。

明治4年の廃藩置県、同9年の廃
刀令は、一般に武士なるものの滅亡
を意味すると考えられ、武士道も封
建時代の旧弊であり、今日に必要な
きもの、精神的指導的位置を失った
ものと見られている。近代になって
武士道は理解されず、むしろ批判・
非難され罵倒されるというのは、世
をあげて功利に走り、義を理解しよ
うとしないところからきている。

武士道の精神、節義廉恥の精神を
取り戻すことが国のために必要であ
る。武士などというのは過去の歴史
的存在、封建時代の遺風、時代錯誤
のように聞こえるかもしれないが、
日本人を支えてきた根本精神として
自ら顧みられねばならないであろう
と結んだ。

本部企画シンポジウム

午後3時から、本部企画シンポジ
ウム「メディアと武道…武道文化と
しての武道との関連から」が行われ
た。まず、豊嶋建広氏（麗沢大学教
授）よりシンポジウムの開催主旨
を「昨年、第49回及び第50回大会の
本部企画を一セットとして、本年を
準備大会としました。第50回大会は
国際武道会議を兼ねていることか
ら、テーマは“Budo and Martial Arts:
Crossover of Traditional and Popular
Culture”となりました。それを受け
て、本日3名の先生方に、世界にお
ける武道のイメージを作る大衆文化
について取り上げていただきます。
武道の実践者が取るべき最善の道と
はいかなるものか。活発な議論を交
わして頂き、第50回大会に繋げてい
きたい」と説明した。

本企画は、アレキサンダー・ベネ
ット氏（関西大学教授）をコディ
ネーターとし、柔道専門分科会より
西森大氏（NHK報道局スポーツセ
ンター）、剣道専門分科会より和田
崇氏（県立広島大学）、空手道専門

分科会より小日向藍菜氏（空手道マガジンJKFan編集長）のパネリスト3名が各自で発表した後、「メディアと武道」について議論した。

◇

初めに、西森氏より「消えた『姿三四郎』」の発表が行われた。

柔道のイメージに大きな影響を及ぼした大衆文化と言えば、『姿三四郎』。主人公・姿三四郎には、富田常雄の柔道家かくあるべしという理想が託された。この作品が作った柔道のイメージは2つ。「柔道に打ち込むことによる人間的成長」と、「山嵐」に代表される「必殺技」。この2つは昭和40年代までの多くの柔道作品に取り入れられ、国民の「柔道」イメージ形成の中核を担った。

東京オリピックの正式種目に柔道が採用されると、柔道ブームが起こる。『柔道一代』などテレビドラマが次々と制作され、主題歌も大ヒット。講道館の入門者数も急増。昭和39年から4年連続で4万人を超えている。

しかし、この時期以降、柔道を題材にした映画、テレビ番組は激減する。漫画でも必殺技を駆使した戦い

ではなく、緻密な駆け引きや人間ドラマが中心になっていく。

『姿三四郎』が消えたのは、柔道の実像と『姿三四郎』の中で描かれた柔道が乖離したからではないか。

例えば、スポーツ中継。テレビを通じて見るヘーシンクや山下泰裕の圧倒的な強さは、「小よく大を制す」のロマンを打ち砕くのに十分だったろう。町道場が減り、オリピックという分かりやすい「夢」が設定され、指導者は人間的な成長より「勝つこと」を求めた。現在、柔道家の理想像としての『姿三四郎』を託されているのはオリピアン。その言動、行動が柔道人気のカギを握るのではないかと結んだ。

続いて和田氏より、「インターネットによる剣道の視聴・コミュニケーション空間の変化」の発表が行われた。

マスメディアに取り上げられる機会の乏しい剣道界において、インターネットは2000年頃から積極的に活用されるようになった。インターネットによる新たな視聴空間の創出は、剣道のコンテンツ化と大会のイベント化を進展させることにな

り、視聴者からのまなざしは主に勝利を争う競技性に向けられるようになった。また、目に見える現象面のみをもつて剣道を評価する傾向を生じさせた。これに対して、全日本剣道連盟などはインターネットを通じて剣道の文化的側面を強調し、剣道が他スポーツとは異なる特性をもつ武道であることを説明している。

一方で、師弟同行を稽古の基本とし、道場など閉鎖的な物理空間での垂直的コミュニケーションを重視してきた剣道界において、インターネットは剣道活動者同士のコミュニケーションの空間的範囲を拡大するとともに、コミュニケーション空間を多層化・多元化させてきたと説明。

最後に、小日向氏より、「イメージの転換期を迎えた空手…2020年東京オリピック採用に伴う新しいイメージの形成」の発表が行われた。

日本の空手関係者にとつて空手は、愛好家のみ参加するスポーツから「観られる」対象としてのスポーツへと変化した。2016年3月の調査では、空手に対してポジティブな印象を持つ割合が、男性より女性において高く、1970年代

に一世を風靡した映画俳優ブルー・ス・リーや、漫画「空手バカ一代」のイメージ（空手とは男性や成人が行なうもの）に、高野万優さんや宇佐美里香さんのイメージ（空手とは女性や子供でも参加できるもの）が追加され、かつ共感を得たことが推測できる。メディアの視点からは、報道対象のスポーツとして位置付けがなされた。イメージ転換の背景には「2020年東京オリピック」があり、イメージ形成のツールとして、動画を共有できるSNSが台頭していることが特徴的であると述べた。

◇

シンポジウムが終わると、質疑応答が行われた。聴講者から、「今後メディアが武道の競技性以外のどのような点に着目し、どのような物語を作りうるのか」との質問があった。

これに対し西森氏より「柔道で学んだ技術だけでなく、嘉納治五郎師範の教えを元に柔道以外の分野も含めて活躍する人物の物語は可能性があるのでないか。そんな魅力的な人物が出てくれば社会に関心を呼ぶのではないかと思います」。和田

氏からは「人に着目したような取り上げ方が増えていくのではないのか。全日本のクラスや日本代表で活躍されている剣道家の方々の言動は、影



コーディネーター＝アレキサンダー・ベネット氏



パネリストたち＝左から西森大氏、和田崇氏、小日向藍菜氏

響力が大きいのではないかと思います。小日向氏からは「世界に競技登録者以外の空手愛好家は数千万人いて、生涯武道として空手を習っているようです。そのため、競技以外の情報提供も根強く求められています。今後、歴史をドラマチックに編集した物語や日本文化として海外に発信していくことに可能性があるのではないかと思います」と答えた。

最後にベネット氏より、『姿三四郎』の柔道への貢献、高野さんと宇佐美さんのYouTubeでの再生回数

など、メディアの影響力はハンパではない。武道は閉鎖的なものではない。武道は、女性も子供もできる。そういう文化であることをアピールできていることはすごく良いと思います。全ての武道に必要なことは、能動的な情報発信。連盟だけでなく道場など全てがメディアを利用していく。利用されるのではなく、利用していく。武道の発展普及に貢献できるようにしないといけないと思います。そのためには、メディアに精通しなければならぬ。来年の国際会議では、今日の話を踏まえていろいろな課題が出てきそうで

す。来年もぜひ関西大学にお越し頂いて、そのような研究や発表をしていただければ嬉しく思います」とまとめ、会は終了した。

一般研究発表

一般研究発表は各日午前中に行われた。2日間で人文・社会科学系35題、自然科学系26題、武道指導法系30題、ポスター発表31題が行われた。以下発表の一部を紹介する。

〈人文・社会科学系〉

▽五賀友継（筑波大学大学院）ほか「明治神宮鎮座祭における弓道奉納演武に関する一考察…戦前期における弓道団体乱立を視座として」

明治神宮鎮座祭奉納演武に見られる、大日本弓道会の弓道観を明らかにするとともに、当時の弓道界における同会の位置を明らかにすることとした。

大日本武徳会弓道部は、「剣道」の前で演武を行い体裁を保ったが、民間弓道団体に強く圧されていた。明治神宮奉射会を通じて、大日本弓道会の高い組織力が窺える。これに



一般研究発表の様子

より、大日本弓道会の高い組織力を裏付けるものとして、明治神宮奉射会を捉えることができる。

大日本弓道会の弓道観として、礼射統一、尊皇敬神思想を見ることができるとした。

〈自然科学系〉

▽仲田直樹（仙台大学講師）ほか「女子柔道選手の体幹筋力…軽中・重量級の特徴」

女子柔道選手の体幹筋力について、階級別に検討し、角速度増加に伴う筋力の低下の面から、その特徴を明らかにした。

幅広い競技力を有する女子柔道選

手61名を対象に、軽量級選手（48kg級・52kg級・57kg級）28名、中量級（62kg級・70kg級）17名および重量級（78kg級・78kg超級）16名に分けた。

体幹の屈曲時および伸展時のピークトルク（mm）をCYBEX770-NORM・SYSTEMを用いて測定。

角速度は、30、60、90、120、150deg/sとした。各被験者にそれぞれの角速度条件で、体幹の屈曲・伸展を各角速度での試行間に30秒の休息を挟み、最大努力で3回連続して行われた。

結果、角速度増加に伴う体幹筋力の低下は、重量級で最も著しかった。体格や筋力が競技力に大きな影響を及ぼしている重量級でも、近い将来、スピードが求められる時代が到来するだろう。競技力向上のため、高速度条件下の体幹筋力トレーニングが必要になると説明した。

〈武道指導法系〉

▽小野卓志（筑波大学）ほか
「ガッツポーズに関する意識調査…武道に携わる大学生を対象として」

グローバル社会の中で、国際化が進む今日の武道（柔道）において、

柔道とガッツポーズ・礼法の関係性について、どのように捉えられているかを検討した。

体育の柔道・剣道・弓道を受講している学生、また上記武道の部活に所属する319名を対象に、KJ法によりアンケート調査を行った。

結果、男子学生の方が女子学生よりもガッツポーズに対して否定的で、モラルが欠如していると考えている者が多いことが示唆された。武道系の学生はネガティブに捉え、逆にその他スポーツを専門としている学生は、比較的ポジティブに捉えていることが明らかになった。

〈ボスター発表〉

▽井下佳織（麗澤大学准教授）

「中学校武道必修化における課題・対応策…空手道授業に対して」

中学校武道授業における空手道採用校は、平成28年6月15日現在で212校となっており、これは全体の約2%である。採用校に共通している事情は、柔道、剣道を実施することが設備的に困難だということである。空手道発祥の地である沖縄での実施率は高くなっている。

最近の傾向として、私立の女子中学校での採用が多い。その理由として、安全に武道の授業が実施できること、用具やその保管が不要で、道着がなくてもできること、男女での共習がしやすいことを挙げた。

今後は、次期学習指導要領に向けて、主体的な学び、学び方、何をどのように学ぶか、何ができるかということについて組み込んでいくことが課題である旨、報告された。

専門分科会

8日の午後は、専門分科会が開かれた。柔道、剣道、弓道、空手道、なぎなた、障害者武道の各分科会ごとに講演や発表、デイスカッションなどが行われた。

▽柔道専門分科会

「競技現場に学術的・科学的サポートはどのように貢献できるか」と題して、石川美久氏（大阪教育大学）司会のもと、木村昌彦氏（横浜国立大学教授・強化副委員長）と井上康生氏（東海大学准教授・リオデジャネイロオリンピック男子監督）を講

師とし、発表が行われた。

会は2部構成で行われ、最初に木村氏と井上氏がオリンピックを振り返っての報告を行った。後半は、2020年東京オリンピックを見据え、「競技現場に学術的・科学的サポートはどのように貢献できるか」というテーマで参加者を3つのグループに分けて意見交換が行われた。最後に、それぞれのグループで話し合った内容を発表し、「科学技術を有効活用すること、また、技術の必要性を認識して、それを学ぶ姿勢が重要である」、「学術面では、研究者と現場が密に情報交換を行い、そ



柔道専門分科会の様子

の連携を緊密にするような仕組み作りが必要である」といった意見が出された。

▽剣道専門分科会

「武道の伝統性について考える」とし、湯浅晃氏（天理大学教授）による講演が行われた。

我々が属する共同体が他の共同体と異質のものであり、その固有性を誇りにしようとする時に、「伝統」に対する強い意識が生まれたように、「伝統」という言葉は包括的な概念であって、個々の実体そのものではなく、共同体の固有性として、「想像」され、あるときには「創造」された意識の産物であった。このように意識された「伝統」のなかに含まれる要素、言い換えれば伝統が具象化されたものとして、それぞれの共同体の固有の習俗や文化の「型」があるとし、文化における多様な「型」の意味を見直した。その上で、武芸における「かた」や、現代における「武道形」、そして競技試合における技の評価基準としての「技の型」を論じた。

▽弓道専門分科会

佐藤明氏（東北大学）による「ヘリゲル『弓と禪』をめぐって」の発表が行われた。

ヘリゲル著『弓と禪』が、弓道界だけではなく哲学・宗教など思想界にも反響を与え、メディアでも取り上げられ、広く一般の人々の弓道への印象を醸成してきたことを説明。

また、彼の師で精神弓道の大家である阿波研造の歩みにも触れ、阿波が捉える弓道にも関心が向けられたことを指摘。人々が興味を示した弓道の大衆文化性と伝統文化性の両面を考察した。

▽空手道専門分科会

ハリー・カーンス氏（桜美林大学講師）による“Depictions of Japanese Martial Arts in Western Pop Culture and Their Influence on American Preconceptions of Training in Japan”（アメリカのメディアにおける日本武道のイメージと実態）の発表が行われた。

幼い頃の日本武道に対するイメージは、聡明な老師が若い弟子に、自分や愛する人を守るため、古来から

の戦闘技術を密かに修業させるイメージであった。この幻想的なイメージは、アメリカのメディアに影響されたものである。こうしたメディアや大衆文化が、どのように日本武道のイメージを形成してきたかを解明し、メディアによって欧米人が持つ日本武道のイメージと実際の武道の実態との乖離を明示した。

▽なぎなた専門分科会

塩山皐月氏（京都大学大学院）による「メディアからみる明治期の薙刀・武道家小松崎古登子の事跡を中心に」の発表が行われた。

明治30年代の新聞記事や女性雑誌に掲載された戸田派武甲流薙刀術師範の小松崎古登子（1846～1912）に関する記事から、日本の近代化に応じた薙刀教育の取り組みについて発表。小松崎氏が時代の要請を理解し、薙刀教育の意義を明治期女子教育の中で位置づける能力や近代メディアを通じての情報発信力があつたことを説明した。

▽障害者武道専門分科会

「障がいある武道家を目指すパラリ

ンピック…来年度の国際会議に向けて」と題し、バネリストとして、伊藤勝治（生和会代表）、大島修次（国際武道大学助教）、三村由紀（防衛大学校講師）、矢崎利加（国際武道大学准教授）の4氏を迎え、森脇保彦氏（国士舘大学教授）と松井完太郎（国際武道大学教授）をコーディネーターとして、討論会を行った。

デフリンピックやスペシャルオリンピクスも視野に入れ、指導現場からの視点（伊藤氏）、パラリンピック競技としての武道（矢崎氏）、採点競技におけるクラス分け・判定法（大島氏、三村氏）を中心に議論を進めた。また、来年度のシンポジウムの仮タイトルを「障がいある武道家が出場するオリンピック・パラリンピック」と設定して、障害者と健常者による武道の「包括化」のあり方を探った。



自然科学系

演 題	発表者	所 属
台湾柔道選手の柔道に関する意識の因子分析的研究 ー男女別における意識構造の検討ー	横山 喬之	摂南大学
「柔の形」競技者における運動器外傷・障害の実態	稲川 郁子	常葉大学
大学柔道選手の熱中症予防について	菊川 顕	岡山商科大学
全日本柔道選手権大会に対する大学生柔道選手の意識に関する研究	生田 秀和	総合警備保障株式会社
柔道選手の受動的筋力発揮における握力について	久保田浩史	岐阜大学
小学生柔道選手における股関節の柔軟性について	松崎 守利	九州女子短期大学
世界柔道選手権大会における審判と試合結果の関係	稲田 達哉	皇學館大学
国際柔道連盟試合審判規定 2014-2016 における CARE システム導入に関する研究	松田 拓	皇學館大学
全日本柔道選手権大会における体格差が勝敗に及ぼす影響：2008 年から 2016 年を対象として	三宅 恵介	中京大学
柔道教授現場で用いる頭頸部筋力測定の開発に関する基礎研究	河鱈 一彦	関西学院大学
ACTN3 遺伝子多型は柔道選手の試合決着時間と関連する	富沢 裕一	東海大学大学院
高気圧高酸素条件下における運動時の生体応答：ミドルパワー発揮 時の場合	竹澤 稔裕	関東学園大学
剣道の面打ち動作における踏み切り脚の力学的特徴	村瀬 直樹	サレジオ工業 高等専門学校
下肢の動作様式が剣道の打突速度に及ぼす影響	椿 武	神戸親和女子大学
棒の力学に基づく「押し手引き手」「手の内」の考察	坂井 伸之	山口大学理学部
弓道での傷害群と非傷害群における体幹機能の違い	竹澤 鮎美	広瀬医院
大学剣道選手の脳内情報処理過程に関する研究 ー Go-NoGo 課題時における非利き手の反応時間と P300 に着目してー	川井 良介	日本大学文理学部
筋電計とバランス Wii ボードなどを用いた剣道動作の総合計測	西畑 大輔	福井大学大学院
暑熱環境下における剣道合宿での経口補水液を利用した効果的な水分 摂取方法の検討	岩佐 健太	岐阜大学大学院
女子柔道選手の体幹筋力：軽・中・重量級の特徴	仲田 直樹	仙台大学
女子柔道軽量級選手における体幹筋力の特徴	越原 未歩	東京学芸大学大学院
柔道選手における等速性体幹筋力と脚伸展パワーの関係	秋本 啓之	了徳寺学園
女子柔道選手における受け身動作の特徴	越田専太郎	了徳寺大学
一流柔道競技者における背負投のキネマティクスの特徴	石井 孝法	了徳寺大学
柔道の後ろ受身動作における打ち手の効果	田村 篤敬	鳥取大学
釣手がパフォーマンスに与える影響 ー釣手の形体や位置に着目してー	射手矢 岬	早稲田大学

一般研究発表 演題・発表者一覧①

人文・社会科学系

演 題	発表者	所 属
近代日本青年団における武道実践について ー明治期から大正期にかけての武術・武道受容の実態ー	吉本 陽亮	天理大学大学院
一刀流伝書の「五点」に関する研究	立木 幸敏	国際武道大学
近代における直心影流に関する一考察 ー山田次朗吉と東京商科大学を中心にー	軽米 克尊	天理大学体育学部
大日本帝国剣道形増補加註の制定過程における討議内容の解明とその分析：近藤知善筆の討議記録に基づいて（その2）	矢野 裕介	神戸医療福祉大学
明治期の徳島県における剣道の普及状況について	木原 資裕	鳴門教育大学
学生剣道界における二刀禁止とその背景 ー昭和天覧試合にみる二刀の競技力と流行からー	植田 哲平	日進市立日進北中学校
隈元實道『武道教範』再考	長尾 進	明治大
新陰流伝書『陰流書』の尾張柳生における歴史的位置づけ：江戸柳生系統の伝書『五巻書』との比較	中嶋 哲也	茨城大学
ドイツにおける柔道の教育普及施策と課題について	曾我部晋哉	甲南大学
ドイツにおける柔道教育の現状 ー「基礎作り」と「対象者別の指導法」を中心にー	ソリドーワル ・マーヤ	津田塾大学
フランスにおける柔道普及に対する取り組みとその問題点	瀧本 誠	駒澤大学
大学生柔道選手のライフスキル獲得とキャリア成熟との関連	山本 浩二	神戸医療福祉大学
柔道高段者の健康関連 QOL と SOC（健康保持能力）の関連性	小崎 亮輔	順天堂大学大学院
直心流柔道成立過程に関する史的研究：松江藩の給帳調査から	久保山和彦	日本体育大学
荒井十内と鳥羽藩の柔術(1) 起倒流	村林 正美	東海支部
通し矢弓術家和佐大八郎と遺品弓具について	松尾 牧則	筑波大学
明治神宮鎮座祭における弓道奉納演武に関する一考察 ー戦前期における弓道団体乱立を視座としてー	五賀 友継	筑波大学大学院
弓道の「霞的、星的」に関する一考察	黒須 憲	東北学院大学
大嶋流、種田流槍術の術技について	石川 哲也	全日本槍術連盟
甲乙流関係史料にみる為政者の武芸実践と思想に関する一考察	菊本 智之	常葉大学
『教授館總宰餘業記録』にみる土佐藩の居合について	森本 邦生	広島県立佐伯高等学校
韓国剣道における審判に関する研究 ー第1回会長杯全国実業剣道選手権大会での取り組みからー	加藤 純一	文教大学教育学部
日本剣道 KENDO の「残心」と韓国剣道 KUMDO の「存心」 ー競技規則の共通理解からー	小田 佳子	東海学園大学
植民地朝鮮における日本柔道の受容過程	朴 周鳳	国際武道大学
東京外国語学校と講道館に於ける本田存について	東 憲一	東京外国語大学

ポスター発表

演 題	発表者	所 属
血流制限下における技術トレーニング効果の検討 ー理論と実際の効果からー	大川 康隆	東海大学
肥満遺伝子と柔道選手の競技力および階級との関連性 ー UCP1 と UCP2 遺伝子多型の検討ー	上水研一郎	東海大学
日本剣道形の動作中に現れる脳波とは	高橋健太郎	関東学院大学
スポーツ障害の原因に関する足下からのアプローチ ー柔道選手の場合ー	小嶋 新太	日本体育大学
中学校柔道部員のケガの発生と体力レベルの関係 ー東京都公立中学校のデータを用いてー	渡辺百合子	東京学芸大学大学院
剣道における外傷および障害の発生状況 ー高等学校および大学の比較ー	廣野 準一	信州大学総合 人間科学系
大学柔道選手における学年別のストレスに関する研究	渡部 将之	大阪産業大学
自律訓練法の介入が減量時の心身のコンディションに及ぼす影響 ー大学男子柔道選手を対象としてー	藤本 太陽	日本体育大学 大学院
柔道整復師養成施設学生と保健医療学部学生の柔道に対するイメージ調査の検討	小柳 祐華	日本柔道整復 専門学校
サンボ競技のルール改正が試合結果に及ぼす影響 ー世界選手権二大会における競技分析の比較からー	松本 秀彦	至学館大学 短期大学部
道具の運動から予期する上肢の構え	木村 陽子	北海道大学 大学院教育学院
弓道体配基本動作の運動学	佐藤 明	東北大学
発見型抑技授業プログラムの有効性の検討	藪根 敏和	京都教育大学
中学校武道必修化に対応した武道系授業の実践報告 ー教員養成系 O 大学の事例ー	石川 美久	大阪教育大学
中学校武道授業の実施体制と困難を示す生徒の実態 ー岡山県における実態調査からー	京林由季子	岡山県立大学
中学校保健体育教員の武道授業実践に関する意識 ー岡山県における実態調査からー	平田 佳弘	環太平洋大学
中学柔道指導者の選手との心理的距離感と競技成績との関係	村田 正夫	大阪成蹊大学
大学生柔道選手におけるコーチングの認知に関する研究	岡崎 祐史	武庫川女子大学
大学生柔道選手におけるライフスキル獲得の様相	岡田 龍司	近畿大学
注視点距離に着目した剣道における面技の目付け	秋山 大輔	日本経済大学
世界剣道選手権大会における有効打突の傾向 ー第 15 回大会と第 16 回大会の比較からー	川端 大輔	札幌市立平岡緑 中学校
剣道正面打ち動作における指導言語による打撃力と打撃フォームの変化について	天野 聡	東海大学
中学校武道必修化に対応した柔道指導のあり方調査研究 ー第 1 学年での授業検証からー	熊野 真司	練馬区立貫井中学校
中学校武道必修化における剣道授業の課題・対応策について 「中学校武道必修化における課題・対応策」空手道授業に関して	本多壮太郎 井下 佳織	福岡教育大学 麗澤大学
「中学校武道必修化における課題・対応策」ー相撲ー	満留 久摩	東京都立桜修館 中等教育学校
「中学校武道必修化における課題・対応策」ー弓道の立場からー	松尾 牧則	筑波大学
「中学校武道必修化における課題・対応策」 ーなぎなたの授業における導入教材の検討ー	佐藤 豊	桐蔭横浜大学
中学校武道必修化における包括教育の可能性 ー東京都江東区 A 中学校における柔道指導についてー	徳安 秀政	東京有明医療大学
少林寺拳法授業による思考の変化	中島 正樹	富士見丘中学校
「中学校武道必修化における課題・対応策」(合気道)	熊澤美裕紀	明治薬科大学

一般研究発表 演題・発表者一覧②

武道指導法系

演 題	発表者	所 属
柔道固め技の基本動作逆えびの二つの方法の効果	石井 直人	秋田工業高等専門学校
動きを学ぶ柔道練習の一方法 ー崩し・つくりの実践による乱取の効果ー	見上 元太	国士舘大
柔道初心者指導における安全のための大外刈り極めの技術：引き手と釣り手について	三戸 範之	秋田大学
柔道における律動的動作を用いた授業開発に関する研究	佐藤 武尊	皇學館大学
柔道授業における ICT 活用の有効性	田中 秀昌	横浜市立上郷中学校
精神障害者、知的障害者に対する柔道療法の事例研究ー社会医療法人清和会西川病院の取り組みから見た柔道療法の新たな可能性ー	中村 和裕	福山大学
大学柔道選手における運動歴と競技成績の関係	谷口 貴章	岐阜大学大学院
体育授業「剣道」で生じる問題点について	西本 浩章	鳴門教育大学 (非常勤)
小学校体育授業における武道の動きを取り入れた教材開発	太田 順康	大阪教育大学
小中学生の剣道観に関する調査研究	山神 真一	香川大学教育学部
剣道初心者の送り足習得後における踏み込み足打突習得に跳躍素振りが及ぼす影響	有田 祐二	筑波大学
武道等指導充実・資質向上支援事業に係る武道指導に関する調査結果（柔道）	磯村 元信	東京都立秋留台高等学校
武道等指導充実・資質向上支援事業に係る武道指導に関する調査結果（剣道）	柴田 一浩	流通経済大学
武道等指導充実・資質向上支援事業に係る武道指導に関する調査結果（相撲）	満留 久摩	東京都立桜修館中等教育学校
学校指導現場における武道必修化の授業成果と課題ー柔道授業に着目してー	渡邊 協	埼玉大学大学院
柔道形の指導に関する研究ー投の形の手技を対象にー	坂本 道人	福岡大学
形の技能評価原論（10）ー「曳落」の理合いについて	村田 直樹	公益財団法人講道館
大学柔道競技者による柔道競技力の重点評価項目について	前川 直也	国際武道大学
リオデジャネイロ五輪に向けた日本代表選手サポートのための『柔道ノート』作成と活用事例	川戸 湧也	筑波大学大学院
高校女子柔道選手の指導状況について	林 弘典	びわこ成蹊スポーツ大学
武道における「礼」の概念と体育学習への展開	竹内友季子	兵庫教育大学大学院
大学体育における武道種目受講学生の武道イメージ	小林 優希	筑波大学
ガッツポーズに関する意識調査 ー武道に携わる大学生を対象としてー	小野 卓志	筑波大学
剣道における男子大学生の競技力に関する研究	桜井 美子	神奈川大学
剣道の技術と技術観に関する研究：有効打突の「刃筋正しく」という判定基準に注目して	佐藤 皓也	早稲田大学大学院
剣道における諸手左上段の構えに対する中段の構えからの技法に関する考察	大矢 稔	国際武道大学
弓道における「口割」に関する一考察	原田 隆次	国際武道大学
空手道全日本選手権大会における決まり技について	三村 由紀	防衛大学校
なぎなたの授業が示す可能性ー皇學館大学の実践例をとおしてー	福田 啓子	皇學館大学
大学におけるなぎなた授業受講前の認知について	木村 有里	順天堂大学大学院

好評発売中

絵と文 中村麻美 (なかむらまみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のこころ



中村麻美 (なかむらまみ) 画家・挿画家。
三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大
学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏
に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教
授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK
BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、
絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした
日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、
テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者
などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。
代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『齋王』(三重県立斎宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしてこい小僧さん
- 二 ひよどり越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと筍
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹―母への薬
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子斎王―別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 八俣の大蛇
- 十五 川中島の戦い―謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫―夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎―米百俵の精神
- 二十二 島津義弘―関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后―千人のからだを洗う
- 二十四 城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇ご東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 鉢中兼山―海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春―誉れの湖水渡り
- 四十 頼朝義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村―大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇―祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』

あとがき



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)

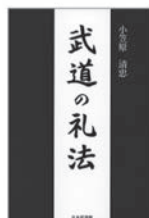


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)

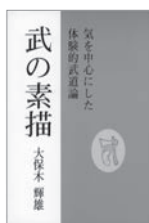


武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

平成28年度全国警察柔道・剣道選手権大会

平成28年度全国警察柔道・剣道選手権大会（主催＝警察庁）が9月6日、日本武道館で開催された。

柔道男子は、60 kg級が新設され、無差別級が100 kg超級に変更となつて、全7階級で実施。100 kg超級では、倉橋功（大阪）が初出場で優勝した。柔道女子は、3階級で行われ、63 kg超級では、岡村智美（熊本）が初出場

優勝に輝いた（その他の階級は大会結果欄を参照）。
剣道男子は、大城戸知（大阪）が5回目の出場で初優勝、剣道女子は阿部美洸（警視庁）が初出場

柔道
男子 100kg超級 倉橋 功（大阪）
女子 63kg超級 岡村智美（熊本）

初出場で優勝



男子100kg超級決勝＝倉橋（上）が川北に返し技を決める



女子63kg超級決勝＝岡村（奥）が市橋に左内股を決める

大会には、皇宮警察本部・各都道府県警が推薦する選手、及び所定の大会で一定以上の成績を収めた選手が出場。

柔道は、男子が試合時間5分間、女子は3分間とし、時間内に勝負が決しない場合はゴールデンスコア方式（以下、GS）による時間無制限の延長戦が行われた。

剣道は、男女ともに時間無制限の一本勝負で競われた。

■柔道

◇100 kg超級男子

初出場の倉橋功は、準決勝で昨年度王者の江藤大暁（福岡）を降す。決勝戦、倉橋は同門の先輩で昨年度準優勝の川北大祐（大阪）と対戦。互いにポイントを取れずに指導3を受ける。そのまま試合時間はなくなり、GSへと突入する。川北が勝負に出てきたところを、倉橋が上手く合わせて返し技を決め、初優勝を成し遂げた。

◎優勝Ⅱ倉橋功選手（大阪）

「決勝の対戦相手である川北選手は、大阪府警で常日頃練習していたい

ている先輩です。川北先輩を正面から投げるのは難しく、カウンターを狙いました。全体としては、今大会はベテランの選手が多く、一筋縄ではいかない選手ばかりでした。しかし心が折れることもなく、最後まで戦えたことが優勝できた勝因だと思います。今後は、団体戦に向けて、準備をしていきたいです」

◇63 kg超級女子

初出場の岡村智美は、決勝で大会3連覇中の市橋寿々華（大阪）と対戦。皇后盃の決勝だと思って挑んだという岡村。市橋の内股・足技を巧みに防ぎ、足技を中心に果敢に攻める。後半、岡村はケンカ四つから左内股を放ち、一本。初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ岡村智美選手（熊本）

「4月に地震があり、道場が全く使えなくなりました。そんな中、教官の先生方が必死になつて柔道ができる環境を整えてくれました。今回、優勝できて恩返しという意味でも嬉しいです。熊本ではまだまだ震災で苦しんでいる方がいます。被災された方に今後も柔道で勇氣と希望を与えられたらと思います」

■剣道

◇男子

竹ノ内佑也(警視庁)、正代正博(警視庁)、内村良一(警視庁)ら有力・ベテラン選手が初戦で敗退する展開となった。その中で大城戸知が決勝まで勝ち上る。

決勝で、大城戸は野田了(岐阜)と対戦。野田の上位に臆することなく大城戸は攻め、豪快に面を決めた。5回目の出場で初優勝を果たした。

○優勝Ⅱ大城戸知(大阪) 選手
「優勝できた勝因は、普段、大阪府

「優勝できた勝因は、普段、大阪府

警で稽古している攻めの剣道を、一回戦から徹底してできたことだと思います。大胆かつ繊細に、そして、手元を上げずに勝負することができました。決勝の野田選手とは4年前にこの大会で対戦して負けていました。今日は気持ちで負けないように臨み、勝つことができました」

◇女子

初出場の阿部美洸は決勝に勝ち進み、前年覇者で過去4回優勝経験のある山本真理子(大阪)と対戦した。試合は、消耗戦が続くなか、山本

剣道

男子 女子

大城戸知(大阪) 初優勝を飾る
阿部美洸(警視庁) 初出場で優勝



男子決勝＝大城戸(左) 対野田



女子決勝＝阿部(右) が山本を攻める

の手元が上がったところを阿部が小手を決め、一本。初優勝を飾った。

○優勝Ⅱ阿部美洸選手(警視庁)

「優勝できて嬉しいです。この大会には初めて出場しました。普段、稽古でやっていることを出し切ろうと

臨みました。決勝では、気持ちで思い切つてやろうと。それが良かったのだと思います。今後は、この結果に満足せずに日本一を目指したいと思っています」

【大会結果】

■柔道

◇男子

▽100 kg 超級①倉橋功(大阪) ②川北大祐(大阪) ③江藤大暁(福岡)、白本周太郎(神奈川)

▽100 kg 超級①長尾翔太(兵庫) ②辻本拓記(兵庫) ③帯川雄大(北海道)、宮崎賢司(神奈川)

▽90 kg 超級①寺本裕基(兵庫) ②地崎亮祐(千葉) ③高橋良介(警視庁)、川瀬孝司(大阪)

▽81 kg 超級①中國史寛(福岡) ②糸井滉平(大阪) ③橋本大悟(兵庫)、手嶋将太郎(皇宮)

▽73 kg 超級①佐藤拓哉(新潟) ②藤本正寛(熊本) ③野手健志(和歌山)、井上倫貴(神奈川)

▽66 kg 超級①吉田惟人(神奈川) ②佐々木貴大(兵庫) ③小倉武蔵(福岡)、久間康寛(警視庁)

◇女子

▽60 kg 超級①黒瀬遼(警視庁) ②浅見喜尚(愛媛) ③足立良平(島根)、岩井貴史(福井)

▽63 kg 超級①岡村智美(熊本) ②市橋寿々華(大阪) ③井坂希望(千葉)、赤嶺麻佑(沖縄)

▽63 kg 超級①荒木穂乃佳(兵庫) ②北岡京(兵庫) ③小出蒔絵(徳島)、谷内美希(大阪)

▽52 kg 超級①垣田恵利(兵庫) ②山口亜佑美(大阪) ③石川秀美(茨城)、山口美咲(長野)

■剣道

◇男子①大城戸知(大阪) ②野田了(岐阜) ③岡光健太郎(千葉)、前田康喜(大阪)

◇女子①阿部美洸(警視庁) ②山本真理子(大阪) ③森山加世(大阪)、三木聖代(警視庁)

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



(写真提供: 剣道時代)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

剣の清流



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

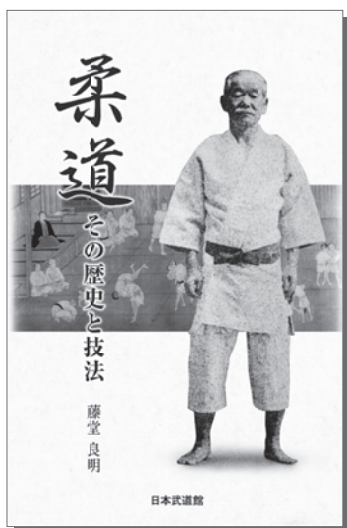
好評発売中!

柔道

その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|---|---|--|
| 第一章 組討ちの起こりと技法
体術の起こりと技法
組討ちの体系化と技法 | 第三章 講道館柔道の歴史と技法
講道館柔道の創設と技法
嘉納治五郎の乱取開発
講道館柔道の行事と整備
警視庁武術大会の勝利と技法
学校体操への柔道導入の試み
学校における柔道普及の実態
高専柔道の起こりと技法
嘉納治五郎の他武道への接近
精力善用国民体育の創案と技法
全日本柔道選手権大会の開催と技法 | 第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
第二次大戦中の柔道界と技法
第二次大戦後の柔道禁止と復活
格技柔道から武道柔道へ
女子柔道の競技化と技法 |
| 第二章 柔術諸流派の歴史と技法
竹内流腰廻
関口新心流柔術
起倒流柔術
起倒流柔道
直信流柔道
真之神道流柔術
天神真楊流柔術 | 第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
柔道技法の変遷と特徴
柔道の国際的普及と発展
段位制度の国際比較
柔道の国際化と課題 | |

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第52回和道会全国空手道競技大会

組手団体
一般男子

東京大学拳法会Aが連覇達成

第52回和道会全国空手道競技大会が、8月20日・21日の2日間にわたって開催された。20日は久喜市総合体育館で予選が行われ、21日は日本武道館で決勝戦が行われた。大会ではシニアから小学1年生まで、組手団体戦5部門、組手個人戦21部門、形個人戦16部門の計42部門の試合が展開された。



決勝・中堅戦＝西村洋輝（左・東京大学拳法会A）対仁科雅斗（拳空会西大寺）



決勝・先鋒戦Ⅱ 広川匡大（左・東京大学拳法会A）対岡崎正輝（拳空会西大寺）



決勝・次鋒戦Ⅱ 柴山悠毅（上・東京大学拳法会A）対三宅健太（拳空会西大寺）

《組手団体戦》

◆一般男子の部

9チームが出場、連覇を狙う東京大学拳法会Aが順当に決勝まで勝ち進んだ。対して、拳空会西大寺は準決勝で東京大学拳法会Bを破り、決勝へと進んだ。

決勝戦、東京大学拳法会A先鋒の広川匡大が9―0で勝利。次鋒戦で、柴山悠毅は上段突きをとられるものの、上段突き、中段蹴り、上段突きとポイントを重ね、7―1で勝利。東大は優勝に大手をかける。連覇のかかった中堅戦では、西村洋輝が拳空会の仁科雅斗と対戦。西村が上段突きで先取る。接戦となるものの、最後に西村が中段突きを決めて5―3で競り勝ち、東京大学拳法会Aが3―0で連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ東京大学拳法会A・鈴木睦監督

「ものすごく嬉しいです。彼らOBは仕事をしながら練習を積んできました。もともと、彼らは才能があります。そして努力も人一倍してきました。社会人となっても稽古を続け、今の試合でも実力を遺憾なく発揮しました。見ていて感心しました」

◆一般女子の部

19チームが出場、準決勝では東洋大牛久中・高等学校が浜松修学舎を2-0で降し、雄飛会は5連覇を狙う立教大学に2-1で勝利した。決勝は、東洋大牛久中・高等学校が2-1で雄飛会に競り勝った。



組手団体・一般女子決勝Ⅱ
土屋美月(右・東洋大牛久中・高等学校) 対 内田千奈美(雄飛会)

◆大学生男子の部

10チームが参加。決勝は、昨年優勝の明治大学と一昨年優勝の立教大学が対戦、昨年と同様のカードとなった。明治大学が3-1で接戦を制し、2連覇を達成した。



組手団体・大学生男子決勝Ⅱ
山田大樹(左・明治大学) 対 希代駿(立教大学)

◆都道府県対抗

9チームが参加。決勝は、前回優勝の埼玉県と静岡県が対戦した。埼玉県が3-2で接戦に勝利。2年連続の優勝を果たした。



組手団体・都道府県対抗決勝・先鋒戦Ⅱ
杉田憲世(右・埼玉県) 対 松本拓隼(静岡県)

《組手個人戦》

◆一般男子有段の部

62名が参加。決勝には山口聡孔(美濃)と広川匡大(東京大学拳法会)が勝ち上がる。両者は過去に何度か対戦があり、互いに手の内を知っている。試合は一進一退を繰り返すが、最後は山口が突きを決め、5-3で辛勝。優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ山口聡孔選手(美濃)

「昨日、小学1年の息子と一緒

優勝しよう」と約束しました。ともに優勝を果すことができ、嬉しいです。広川選手とは、何度も対戦しています。30を過ぎ、なかなか体が動かないですが、頭を使いながら勝つことができました。10月の岩手国体の出場も決まりましたので、一つ一つ試合をこなしていきたいです」

◆一般女子有段の部

33名が参加。決勝では、内田千奈美(雄飛会)と柿木瑠璃(神奈川大

学)が対戦。柿木は突き、蹴りともに内田に上手く阻まれ、得点できない。対して内田は突き、蹴りと得点を重ね、6-0で勝利した。

◎優勝Ⅱ内田千奈美(雄飛会)

「2連覇できて嬉しいです。準決勝での相手が強く、心が乱れたまま決勝へと臨みました。しかし、決勝では冷静になることが出来ました。大学では空手をやっておりませんので、今後は子供たちと一緒に空手をやれたらと思っています」



組手個人・一般男子有段決勝Ⅱ
山口聡孔(右・美濃) 対 広川匡大(東京大学拳法会)



組手個人・一般女子有段決勝Ⅱ
内田千奈美(左・雄飛会) 対 柿木瑠璃(神奈川大学)



組手個人・小学2年男女決勝Ⅱ
小森八一(左・美濃) 対 山下忍(名空会福井)



組手個人・小学5年女子決勝Ⅱ
舟田理々花(左・津) 対 久保田歩(ゴルフバニ塾)



組手個人・シニア男子50歳以上決勝Ⅱ
藤本秀樹（左・神岡道場）対
向井正隆（杉浦錬成塾向井道場）



組手個人・一般女子有級決勝＝
寺岡優奈（左・文教大学）対
藤野あゆみ（拳空会西大寺）

組手個人・シニア男子40歳以上決勝Ⅱ
藤森大二郎（奥・杉浦錬成塾本部）対
宮前秀樹（名空会金沢）



組手個人・一般男子有級決勝Ⅱ
浦島大生（右・北海道科学大学）対
萩原凜太郎（東京大学）



組手個人・シニア女子40歳以上決勝Ⅱ
齊藤師保（左・一道塾）対
中田あゆみ（霞ヶ関空手倶楽部）



《形個人戦》

◆一般男子有段の部

30名が参加。決勝は、前回優勝の伊藤祥太（名空会福井）と古橋卓也（名空会本部）の昨年と同様の対決となった。伊藤はチントウ、古橋はワンシュウを演武。互いに渾身の形を披露する。判定の結果、3―2で

◆一般女子有段の部

24名が参加。決勝は、前回優勝の児玉百奈美（茂原）を準決勝で降した鈴木美晴（千秋会）と田口精華（札幌西）が対戦。鈴木はセイシャン、田口はチントウを演武。4―1で鈴木に軍配が上がり、初優勝に輝いた。

伊藤が連覇を果たした。



形個人・一般女子有段優勝＝
鈴木美晴（千秋会）のセイシャン



形個人・一般男子有段優勝＝
伊藤祥太（名空会福井）のチントウ

形個人・シニア男子40歳以上決勝
平岡誠（神岡道場）のワンシユウ



形個人・少年男子決勝＝
伊藤瑠威（鍊成館）のチントウ

形個人・シニア女子40歳以上決勝＝
雅賀弘美（昇政塾）のクーシヤンク



形個人・中学生男子決勝＝
舟田葵（津）のクーシヤンク



形個人・一般女子有級決勝＝
大橋愛（昇政塾）のクーシヤンク



形個人・小学3年男女決勝＝
渡辺隼士（岐東）のクーシヤンク



【大会結果】※優勝者のみ

《組手団体戦》

▽都道府県対抗Ⅱ埼玉県▽一般男子Ⅱ東京大学拳法会A▽大学生男子Ⅱ明治大学▽一般女子Ⅱ東洋大学付属牛久中学校・高等学校▽少年男子Ⅱ東洋大学付属牛久中学校・高等学校

《組手個人戦》

▽一般男子有段Ⅱ山口聡孔（美濃）
▽大学生男子有段Ⅱ櫻井勇作（名空会本部）▽一般男子有級Ⅱ浦島大生（北海道科学大学）▽一般女子有段Ⅱ内田千奈美（雄飛会）▽一般女子有級Ⅱ寺岡優奈（文教大学）▽シニア男子50歳以上Ⅱ藤本秀樹（神岡道場）▽シニア男子40歳以上Ⅱ藤森大二郎（杉浦鍊成塾本部）▽シニア女子40歳以上Ⅱ斉藤師保（一道塾）▽少年男子Ⅱ大谷拳誠（KICK大心館）▽少年女子Ⅱ谷津倉夷音（瑞空塾至誠道場）▽中学男子Ⅱ伊藤楓彪（水風会名東）▽中学女子Ⅱ荒井夏芽（川口会千葉）▽小学6年男子Ⅱ千枝紘（はさま）▽小学6年女子Ⅱ安達水優（拳誠塾）▽小学5年男子

Ⅱ鈴木陽斗（瑞空塾至誠道場）▽小学5年女子Ⅱ舟田理々花（津）

▽小学4年男子Ⅱ小澤凜登（杉浦鍊成塾本部）▽小学4年女子Ⅱ小林絢（明空義塾札幌）▽小学3年

男女Ⅱ齋藤夢華（明空義塾札幌）

▽小学2年男女Ⅱ小森八一（美濃）

▽小学1年男女Ⅱ山口璃貫（美濃）

《形個人戦》

▽一般男子有段Ⅱ伊藤祥太（名空会福井）▽一般男子有級Ⅱ堀澤龍馬（文教大学）▽一般女子有段Ⅱ

鈴木美晴（千秋会）▽一般女子有級Ⅱ大橋愛（昇政塾）▽シニア男子40歳以上Ⅱ平岡誠（神岡道場）

▽シニア女子40歳以上Ⅱ雅賀弘美（昇政塾）▽少年男子Ⅱ伊藤瑠威（鍊成館）▽少年女子Ⅱ畠山ほのか（和道会小牧）▽中学男子Ⅱ舟田葵（津）▽中学女子Ⅱ菊池ひかる（水風会名東）▽小学6年男女Ⅱ岩城沙耶（津）▽小学5年男女Ⅱ市川花怜（津）▽小学4年男女Ⅱ清水川遼（北方）▽小学3年男女Ⅱ渡辺隼士（岐東）▽小学2年男女Ⅱ磯貝大介（鍊成館岐阜）▽小学1

年男女Ⅱ面家早百合（岐刑）

全日本柔道連盟強化委員会

2020年 東京五輪へ向け、新体制発足

9月14日、全日本柔道連盟は2020年東京五輪へ向けた強化委員会の新体制を発表した。同連盟臨時理事会では、強化委員長として金野潤氏、副強化委員長として山田利彦氏、男子の強化委員長として中村兼三氏、女子の強化委員長として渡辺涼子氏が承認された。続いて監督選考委員会が開催され、男子監督は井上康生氏が留任。女子監督は増地克之氏が新たに選任された。10月1日より新体制が発足。強化委員長・副委員長の任期は2年、男女監督は4年となる。山下泰裕全柔連副会長は、現在、若い層に優秀な指導者が多く、2020年に向けて指導者の世代交代を図ったとコメントを寄せた。



左から井上康生氏、金野潤氏、増地克之氏



金野 潤
新強化委員長
日本大学准教授 (49)

「東京五輪へ向けて、強化委員長を拝命したこと、重く受け止めています。監督、コーチ、スタッフたちと力を合わせてしっかりと東京五輪を成功させたいと思っています。次回五輪は東京で行われる特別なものです。日本の皆さま、世界の方々に日本柔道の強さ、素晴らしさというのを伴った試合を行えるような柔道チームにしていきたいです。また、選手は全員金メダルを目指していますが、メダルを獲得することは非常に難しいこと。結果として銀・銅メダルをとった選手にも敬意を払うのは当然です。しかし、目指すのは男女全階級、金メダルです」



井上康生
全日本男子監督
東海大学准教授 (38)

「リオ五輪まで最強かつ最高の選手育成という柱を立ててやってきました」



増地克之
新全日本女子監督
筑波大学准教授 (45)

た。4年後もその思いは変わりません。しかし、東京までの4年間、一つ一つの過程でリオ五輪と同じことをしては勝てません。よりレベルの上がった強化となるように進めていかなければなりません。そのためには自分自身の監督としてのスキルを上げていかなければならない。そしてチームの力も上げて戦ってきたい。五輪での強いチームを考えますと、一本をとれる選手というのはどんな時代・ルールでも普遍的に必要です。そして自己マネジメント力の高い選手、そんな自力のある選手がこれから求められます」

「東京五輪へ向け、全身全霊で取り組んでいきたいと思っています。稽古の中では繊細に、試合では大胆に勝負ができる選手を育てていきたいです。五輪という大舞台で力が発揮できないのでは話になりません。大舞台で自分の力以上のものを発揮できる選手を育成したいと思っています」

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(さんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

日本武道館

金城 裕

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出会い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

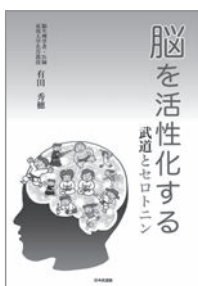
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著



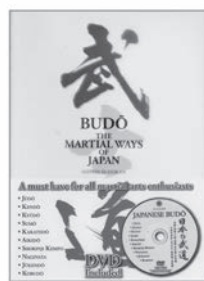
人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。